

最低でも「U 字回復」目指すトランプ政権

4Q 大幅プラス成長へ偉大な米経済再生産業グループ

2020/4/22

新型コロナウイルス感染パンデミックで大打撃を受けた米経済の再興が「V 字」回復か、「U 字」回復なのか、それとも「L 字」回復にとどまるのか、その帰趨は 1918 年のスペイン風邪以来「100 年に一度」の公衆衛生危機だけに判然としないが、トランプ政権は「偉大な米経済再生産業グループ」創設により、感染拡大を阻止しつつ経済的「殺戮」である封鎖経済の緩和で最低でも「U 字」回復を目指す。

米 4-6 月期 GDP-40%JP モルガンチェース予想

弊社ワシントン情報筋によれば、「再選を目指すトランプ大統領は 11 月大統領選に向け米経済『V 字回復』、最低でも『U 字回復』の実現を目指すべく『Greater Economic Recovery Industry Group』（偉大な米経済再生産業グループ）を創設し、コロナ禍を受けたトランプ支持基盤である白人労働者の失業問題を扱いつつ、拙速な経済活動再開で再び感染が拡大するとの反対意見を退け 5 月からの経済活動の再開に踏み出した」と解説する。

米金融大手 JP モルガンチェースは 4-6 月期 GDP が-40%、08 年金融危機時の 09 年の 10%の 2 倍の失業率 20%に達すると予測、国際通貨基金（IMF）は 4 月 14 日、感染拡大による移動制限などの経済損失は 500 兆円超とし世界経済の成長率予測を-3.0%へ下方修正した。

世界大恐慌時の先進国 GDP は-16%の大幅マイナス成長に陥落、今回のコロナショックはこれに次ぐ景気後退でリーマンショック直後 09 年の成長率-0.1%を遥かに凌ぎ、ゲオルギエバ IMF 専務理事は「(1930 年代の) 大恐慌以来、最悪の不況を経験する可能性が高い」と警鐘を鳴らした。

むしろ、世界大恐慌以来の「コロナ禍」はヒトとモノの動きを止める封鎖・隔離「非薬事介入」によるもので、特にサービス経済を直撃し、米国では 3 月末までに 2000 万人が失職、失業率は 15%に跳ね上がるとされる。

トランプ大統領は感染者が急増した 3 月下旬、第 2 次世界大戦で志願兵や軍需工場の工員が果たした貢献に触れ「目に見えない敵を倒す。私は戦時大統領。これは戦争だ」と総力戦を訴えた。想起される「戦時大統領」は第 2 次世界大戦期のルーズベルト大統領や南北戦争期のリンカーン大統領などが彷彿とされる。

むしろ、「戦時下の大統領」の再選戦略に「偉大な米経済再生産業グループ」創設の狙いがあり、その経済活動再開シナリオはすでに 4 月 9 日の米ブルッキングス研究所ネット講演でパウエル FRB 議長の

「経済が回復すると信じる十分な根拠がある。回復し始めれば、それは底堅いものとなる」との言質と整合的である。

そして、議長曰く「根拠」とは、「パンデミックは経済を減速させるが、公的な衛生介入はその限りではない」とする 3 月末発表の FRB エコノミストらによる 1 本の論文である。公衆衛生介入とは、学校や教会の閉鎖など「ソーシャル・ディスタンス（人的距離）」を指すが、FRB は 1918 年のスペイン風邪パンデミックについて、米国の都市別に対処法と経済回復度合いを詳細に分析。

「スペイン風邪は全米で製造業の生産活動を-18%押し下げたが、収束後の 19 年は経済の復旧度合いが都市により異り、流行より 10 日早く衛生介入策を講じた都市では、収束後に雇用者数が+5%増加、平均より 50 日間長く策を続けた都市は+6.5%といずれも急回復、製造業も+5-7%増加した」（同論文）一。その回復まで米 FRB の資金供給や米政権の大規模経済対策が景気を支援する。

ところが、WHO（世界保健機関）は「正常化を急げば感染拡大を招く」と慎重な判断を呼びかけ、政権のコロナ対策本部の国立アレルギー感染症研究所ファウチ所長は 14 日、米 AP 通信に対し、「検査や感染経路の特定に十分な態勢が整っていない」とし 5 月 1 日の経済再開は「楽観的すぎる」と述べた。「偉大な米経済再生産業グループ」には、こうした反対意見を退け、7-9 月プラス成長の「V 字回復」、最低でも 10-12 月大幅プラス成長の「U 字回復」を目指す狙いがある。

第 1 波から第 3 波まで 3 年要したスペイン風邪

「有効性が確認された薬があれば 1 ヶ月程度で承認される可能性を含め治療薬の承認に向けあるゆる障壁を取り除く」一。トランプ大統領がこう新型コロナ「特効薬」の早期承認を公言した。

米臨床試験登録データベースによれば、世界で 650 以上のコロナ「特効薬」の治験が登録され、治療薬とワクチン開発の種々研究が進んでいる。17 日の米株式市場でエボラ出血熱の治療薬候補「レムデシビル」が新型コロナ重症患者の回復に繋がったとのレポートが伝わり米医薬大手ギリアド・サイエンズの株価が約 10%急騰した。

レムデシビルはエボラ治療薬として有効性が低いと開発が中断されたが、新型コロナウイルスの体内増殖を防ぐ効果があると報告され、ギリアドは 5 月中にレムデシビルの初期治験データをもとに有効性が確認できれば米食品医薬品局（FDA）に承認を申

請、早ければ夏にも米国の医療現場で処方される可能性がある。

富士フイルム富山化学のアビガンは日米で治験を開始、6月末までに治験を終え、早ければ夏にも全国の病院に出ると観測される。新型コロナ特有の症状は、重症の肺炎であり、その肺炎重症化を抑制する効果があるがリウマチ治療薬だ。

スイス・ロシュ「アクテムラ」や仏サノフィ等の「ケブザラ」がリウマチ新薬でありアクテムラは4月から治験を開始、6か月後の9月末迄に治験終了、今秋の承認を目指す。ケブザラは21年3月に治験終了を見込み、承認はその1-2か月後の21年4-5月になると観測される。

一方、「血漿投与」というコロナから回復した患者の血液を使う治療法があり、国内では国立国際医療研究センターが4月中にも試験的な治療を試みる方針。回復者の血漿成分を活用した「血漿分画製剤」では武田薬品工業が米 CSL ベーリングと開発を進め、年内の実用化を目指している。

かかる世界の製薬会社や研究所による既存薬や技術応用は、有効性の確認後に直ちに医療現場で使えるからだ。新薬をゼロから開発し、実用化するには10年近くかかるが、既存薬は安全性確認など時間のかかる臨床実験を終えており短期間で治療薬として使える。

一方、100年前、世界人口の3分の1以上が感染し死者5000万人から8000万人に及んだ人類は史上最悪とされる新型インフルエンザ「スペイン風邪」

の感染症パンデミックを経験した。

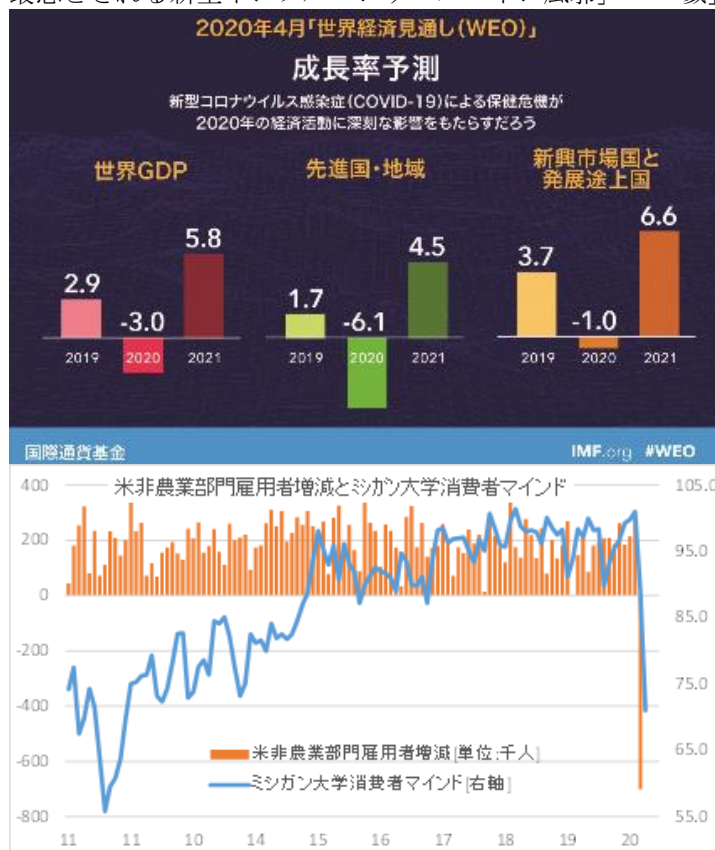
この「ウイルス世界大戦」の歴史は、猛威を振るう新型コロナウイルスへの対処で多くの示唆を与える。スペイン風邪は1波、2波、3波と3年にわたり流行し、1918年10月ごろから日本でも本格的な流行が始まった。

国内では2度の感染爆発を迎えることになるが、「前流行」は翌19年の夏前に収束、内務省の記録では患者は約2117万人、死者は25万7000人。当時の国民の4割が感染し、死亡率は1.22%だった。

そして19年秋から「後流行」が到来、毎年師走の12月1日は徴兵された新兵の入営日で、そこから感染が爆発的に広がった。「この軍隊における罹患こそ、本格的な『後流行』の点火剤となった」（速水融著「日本を襲ったスペイン・インフルエンザ」）。

密閉・密集・密接環境の軍隊は感染の温床で20年1月の新聞は陸軍の内外の患者約2万6000人、死者約1300人、死亡率5.2%と伝える等、「後流行」は20年夏に収束し、患者は約241万人、死者は約12万8000人に及んだ。

しかし、スペイン風邪は、インフルエンザウイルスを分離する技術がなく、大流行の理由がわからなかった。ようやく2005年に米国のチームがスペイン風邪で死亡した当時の患者の肺の標本からウイルスのゲノム配列を解読、いずれにせよ、「偉大な米経済再生産業グループ」創設は、新型コロナ「特効薬」とワクチン開発を伴走しつつ都市封鎖の経済的「殺戮」から米経済を開放する狙いがある。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。

ん。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。